

(武蔵村山市)

# 注文主の納得いく家具を

店のカウンターやマンションのエントランス、歌手や政治家ら著名人宅の家具など、オーダーメイド家具のデザイナー・製作を手がける。家具職人の松岡茂樹さん(32)が、2003年に武蔵村山市に設立した。

テーブル、イス、ラックなど、製作する家具の種類は幅広い。「材料やデザインなどを注文主と徹底的に話し合う」のがモットーだ。コンピュータグラフィックス(CG)で描いた立体図は、注文主が納得いくまで何度も書き換え、製品のイメージを練り上げる。デザイン・製作には、工房で働く3人の家具職人のほか、下請けの職人ら約10人があたる。

## 企業探訪

松岡さんは専門学校を卒業後、木製家具の製造会社に入社。職人気質の会社で、上司からは「技術を身につけるまでは10年かかる」と言われたが、「3年ですべて覚える」と意気込んだ。早朝5時半に起床して出社し、帰宅後は深夜までデザインに没頭した。やがて、展示会への出品作品が表彰されるようになり、会



東京産ブランドの家具について、「楽しく物づくりができる輪が広がれば」と話す松岡さん

社からは「好きな製品を作った良い」と腕を認められるまでに成長。約3年後に独立を果たした。

昨年夏、多摩の木材で製作した家具のブランド化を目指し、伐採、製材、配送、製造業者、デザイナーらに呼びかけて、「Made In Tokyo Products」を結成した。「不況の中、地産地消で地域経済を活性化したい」という狙いからだ。伐採から販売までのすべてを都内の業者が手がける構想で、木材は、都が花粉対策として伐採している奥多

摩の杉などを使用する。ただ、杉は家具の材料には向いていない素材。強度が不足していたり、風合いがなじまなかったりと課題は山積んでいた。「これまでの家具製作で培ってきた技術をゼロにして、試作を繰り返し」と松岡さん。強固な立体構造を考え、杉に漆を塗ったり革を張ったりして、コートハンガーやイスなどの試作品が完成した。「今年の冬には、東京産家具のデパートや通販での販売にこぎ着けたい」と話す。

来年、家具職人として10年を迎える。現在はホームページでしか製品を見られないこともあって、「質感や手触りを伝えたい」と自社ショップを出すことも目標に掲げる。「多くの人に実物を見てほしい」。家具職人の挑戦は始まったばかりだ。

武蔵村山市伊奈平1の29の1。資本金500万円。従業員3人。☎042・531・5905。ホームページは、<http://www.koma.gs/>